

とらわれの身だった少年は父の作った翼によって自在に空を飛べるようになり、苦境を脱した。だが太陽に近づきすぎた。翼の蝶が溶け、彼は墜落死してしまった▼ギリシャ神話の「イカロスの翼」は、人間の傲慢さやテクノロジーへの過信を戒める物語だとされる。が、窮状を打開するのは勇気であり技術力だとも読める▼きのこの羽生結弦選手を見て、そんなことを思った。初めは「羽が生える」と書く名前からイカロスを連想したまでだったが、その戦いぶりにイメージが膨らんだ▼コーチが報道陣に言っていた言葉がよみがえる。「羽生という選手を見くびるな」。最高難度のジャンプを跳ばなくても勝

越山若水

2018.2.18

つ。圧倒的な技量だといふことがいまにして分かった▼「金メダルは僕がとります」。本人がそう断言していたことにも脱帽だ。退路を断って己を奮い立たせる意味もあっただろうが、これが王者のメンタリティーというものでろう▼その華やかさの陰で、きのうはもう1人の「羽生」さんも決戦に臨んだ。先に国民栄誉賞を受けた将棋の羽生善治二冠である。相手はあの29連勝の藤井聡太五段だった▼棋界の第一人者と記録づくめの中学生棋士。公式戦初の対局は藤井五段が勝った。この戦いにも心が動いた。傑出した二つの才能が鋭く火花を散らし、若さが経験を超えた。盤上に清新な風が吹いたよつだった。